

令和5年度福祉部会第3回研修会 報告

日 時：令和6年2月12日（月・祝）13：30～16：30

方 法：対面（後日、講演部分のみオンデマンド配信）

会 場：ウインクあいち（愛知県産業労働センター） 904 会議室

参加者：14名

テーマ：児童福祉施設での記録の必要性とその活用

講 師：春日井市役所総務部主幹（弁護士）

中野 智明氏

元名古屋市子ども福祉課 管理栄養士

杉浦 正美氏

学校法人旭ヶ丘学園旭ヶ丘第二こども園 管理栄養士

加藤 静香氏

弁護士、元行政の管理栄養士、認定こども園の管理栄養士の3人の講師から、それぞれの立場で記録の必要性と活用についてお話いただいた後、質疑応答を含めた全体でのディスカッションを行った。

始めに弁護士である中野先生から「法的責任からの記録の必要性」として、事故などが起きたときの証拠としての記録の重要性と、正確な記録の必要性についてご講義いただいた。記録に虚偽があると、その記録者の全ての記録が信用されず証拠から除かれてしまうため、却って不利になることもあるとのことだった。

次に、私から児童福祉施設の監査を行っていた経験を踏まえて、「評価のための記録」についてお話した。監査の際にどのような視点で記録を見ていたのか、その視点の1つとして自分の仕事を評価できる記録がなされているか、そのための正しい記録と現状を数字で把握する必要性などについてお話させていただいた。

最後に認定こども園で業務の記録を行っている加藤先生から、実際の記録内容が書かれた書式をお示しいただきながらご講義いただいた。園から示される年間の食育方針をどう読み取り、具体的にどのように食育を行うか、根拠に基づく食育とそのため記録の大切さをお話いただいた。「食育によって子どもたちがどう変わったのかを見られている。」という言葉が印象的だった。

全体ディスカッションでも多くの質問があり、活発な話し合いとなった。アンケートにも、「嘘のない、正確な記録が、リスク回避につながる。」、「具体的にここまでの食育計画が、年間でされていることに、ぜひ参考にしたい。」などあり、参加者は少ないながらも有意義な研修会となった。

アンケートには、「幼児の栄養士として成長したい。そのための自主的な勉強会など開催して欲しい。」との要望もあり、来年度以降の検討課題としたい。

最後に、オンデマンド配信のためZoomでの録画を行ったが、Zoomの操作に手間取り、会場参加者にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

（報告者：杉浦 正美）